

電子部品出荷額 県18年連続首位

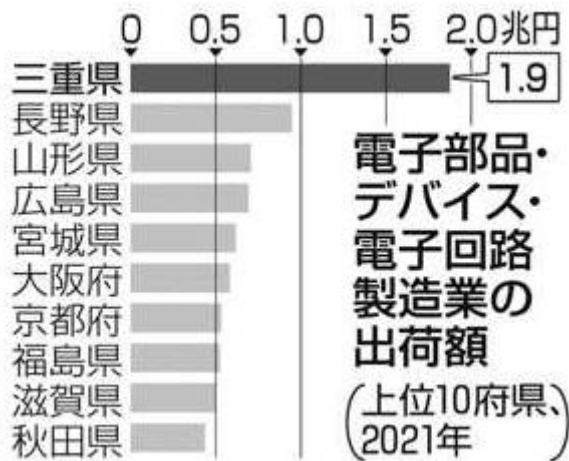
三重県は、半導体を中心とする電子部品・デバイス・電子回路製造業の製造品出荷額等（以下、出荷額）が、経済産業省の直近調査(2021年)まで18年連続で全国1位だ。21年の出荷額は1.9兆円で、2位の長野県のおよそ2倍となっている。

県内でも地域の経済を支える重要産業に位置付けられる。出荷額は県内製造業（約11兆円）の17%を占め、製造業の中で輸送用機械器具製造業（約2.6兆円、23.8%）に次いで2番目に大きい。利益にあたる付加価値額は、製造業の中で最高だ。

同産業の筆頭は、NAND型フラッシュメモリの製造で世界2位の半導体メーカー「キオクシア」と3位の米「ウェスタンデジタル」が共同運営する四日市工場で、この工場だけで県製造業全体の出荷額の約1割を担う。

百五総合研究所の推計では、22年10月に完成した総投資額1兆円規模の同工場第7製造棟（第1期分）における21年度から10年間の投資や稼働が県内産業に及ぼす経済波及効果は、約7.2兆円に上る。世界情勢が不安定となる中、各国はあらゆる産業に不可欠な半導体を重要戦略物資として巨額予算を計上し、囲い込みを図っている。日本の半導体産業を担う三重県において、同産業を継続的に支えていくことは地域、さらには日本経済の発展につながるだろう。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子）



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2024年2月29日